広報 Ibaraki Public Information
いばらき
2024年（令和６年）
８月１日　発行
8
No.1111
August 2024

◆編集・発行
茨城町 町長公室 秘書広聴課
〒311-3192
茨城県東茨城郡茨城町小堤1080
☎ 029−292−1111
メールアドレス
ibarakit@town.ibaraki.lg.jp

◆人口
住民基本台帳
令和６年６月末現在
男　15,469人
女　15,268人
総人口　30,737人
世帯数　13,674世帯

◆茨城町民憲章
1 ふるさとの自然を守り、美しい環境の町をつくりましょう。
1 からだをきたえ、教養を高めて、すこやかな町をつくりましょう。
1 隣人や家庭の愛を大切にして、まごころのかよい合う町をつくりましょう。
1 自分の仕事に責任と誇りをもち、活気に満ちた町をつくりましょう。
1 文化遺産を愛護し、先人の努力に感謝できる町をつくりましょう。

◆町の花　桜
◆町の木　梅
◆町の鳥　うぐいす

◆町の防災行政無線が聞き取れなかった場合
防災行政無線テレフォンサービス
☎０８００−８００−８８４８
（通話料無料）
町ホームページにも放送内容を掲載しています。

◆町の情報発信中!!
●町公式ホームページ
https://www.town.ibaraki.lg.jp/
●町公式Ｘ（旧ツイッター）
https://twitter.com/IbarakiTownMati/
●町公式インスタグラム
https://www.instagram.com/townibaraki_official/
●町公式ライン
https://page.line.me/?accountId=ibarakitown

里山に育む生きものたち

№145　セイヨウミツバチ
（ミツバチ科）

学名　*Apis mellifera Linnaeus,1758*

写真・文　小菅　次男

セイヨウミツバチとは

日本には、在来のニホンミツバチと外来種のセイヨウミツバチの２種が見られます。

セイヨウミツバチは、体長は女王バチが約18㎜、働きバチが約16㎜で、雄バチが約13㎜、体全体に黄色部が多く、腹部後方にはっきりとした黒のラインの部分が目立っています。

エジプト王のしるし

蜜の利用は古く、古代エジプト文明に見られ、4000年前、エジプト王のしるしにミツバチが使われており、旧約聖書にもミツバチのことが書かれています。

ミツバチ研究は、17世紀にオランダで始められ、その後フランスに移り、その記録に刺激されたスイス生まれのフランソワ・ユーベル（1750～1831年）は、失明という悪条件とともに研究を進め、近代養蜂の基礎を作り上げました。

近代養蜂は明治時代から

日本では皇極天皇（642～645年）の時代に、百済の太子が日本に移入したのが始まりと言われています。養蜂については江戸時代の大和本草（宝永５年、1708年）などにも書かれています。

ヨーロッパやアメリカの養蜂が輸入紹介されたのは、明治６年（1873年）のドイツ式養蜂で、明治10年にはイタリア系の種がアメリカから輸入され、内藤新宿試験場（現在の新宿御苑）で飼育したのが日本の近代養蜂の幕開けとなりました。

野生化が困難

セイヨウミツバチは各地で飼育されていますが、ほとんどの地域で野生化していません。それはニホンミツバチがズメバチに対して攻撃する技を持っていないからです。ニホンミツバチはスズメバチを取り囲み、筋肉を震わせて体温を上昇させ、蜂球の中心部を45℃以上にして熱で殺してしまうのです。

ノーベル賞受賞

オーストリアのカール・フォン・フリッシュは、ミツバチのコミュニケーションに関しての研究で1973年にノーベル生理学・医学賞を与えられました。彼はミツバチが円形ダンスと８の字ダンスを舞うことで、食物源を仲間に知らせることを明らかにしました。

エジプト王のしるし、ノーベル賞受賞という比類なき名誉を背負ったハチが私達の前にいたハチだと見直すことは、すごいハチだと見直したい。

ちびっ子アート　飯沼こども園

「あめのひの　おさんぽ」
ぐんじ　さくら（５歳）

「あめふり　だいすき」
なかがわ　あおと（５歳）

再生紙を使用しています
PRINTED WITH SOY INK 環境に優しい大豆油インキを使用しています